

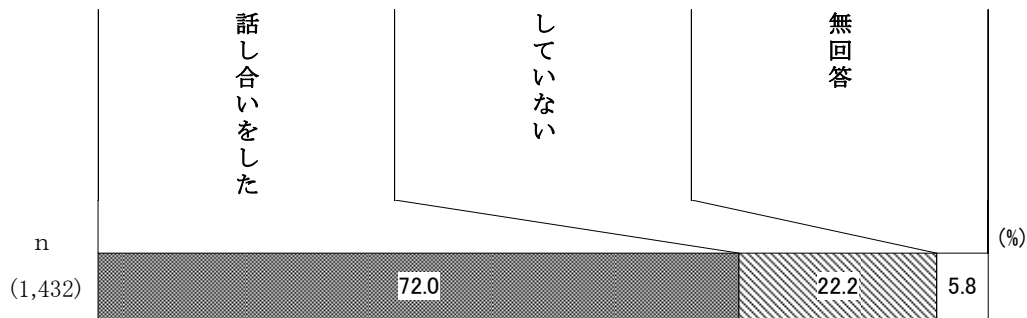
2. 災害時の備え

- (1) 身近な人と災害に関する話し合いをしたか
- (2) 話し合いの内容
- (3) 身近な人との連絡方法の取り決め
- (4) 身近な人との災害時の連絡方法
- (5) 身近な人との待ち合せ場所の取り決め
- (6) 震災前と比べた防災への意識
- (7) 大きな地震が起こった際の心配事
- (8) 自宅での地震対策
- (9) 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

2. 災害時の備え

(1) 家族や身近な人と災害に関しての話し合いをしたか

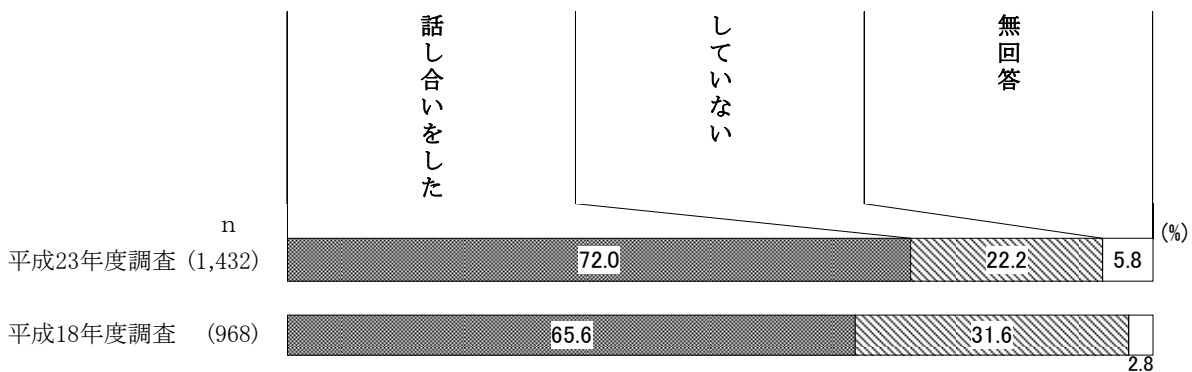
問9 あなたは、東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをしましたか。(〇は1つ)



東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをしたかたずねたところ、「話し合いをした」は72.0%と高くなっている。一方、「していない」は22.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「話し合いをした」(72.0%)は平成18年度調査より6.4ポイント増加し、「していない」(22.2%)は9.4ポイントの減少となっている。

経年比較 家族や身近な人と災害に関しての話し合いをしたか

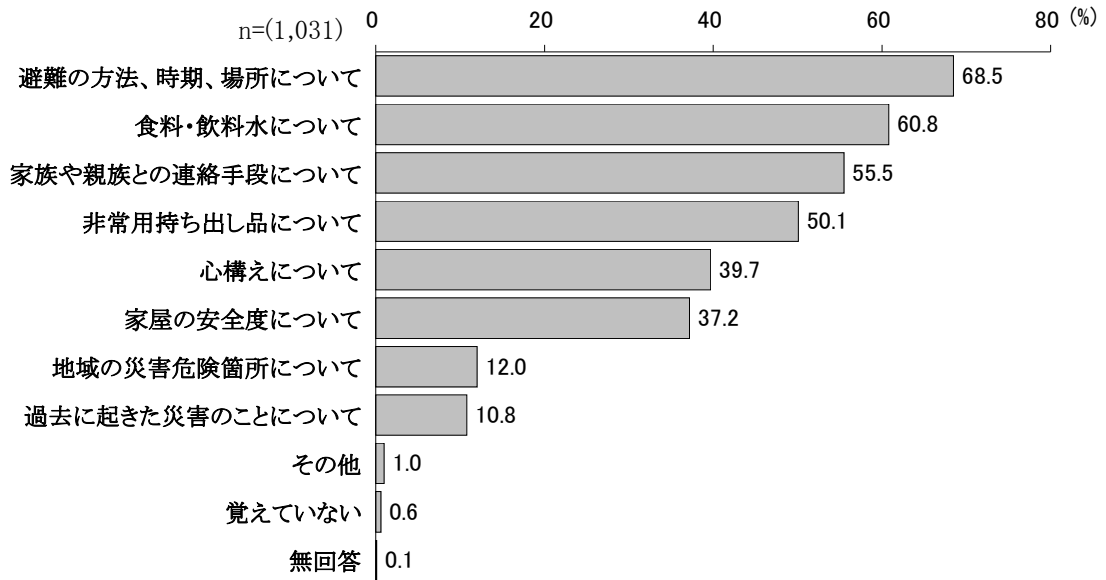


※平成18年度調査では、選択肢は「ある」、「ない」であった。

(2) 話し合いの内容

【問9-1 問9で「話し合いをした」とお答えの方にお伺いします。】

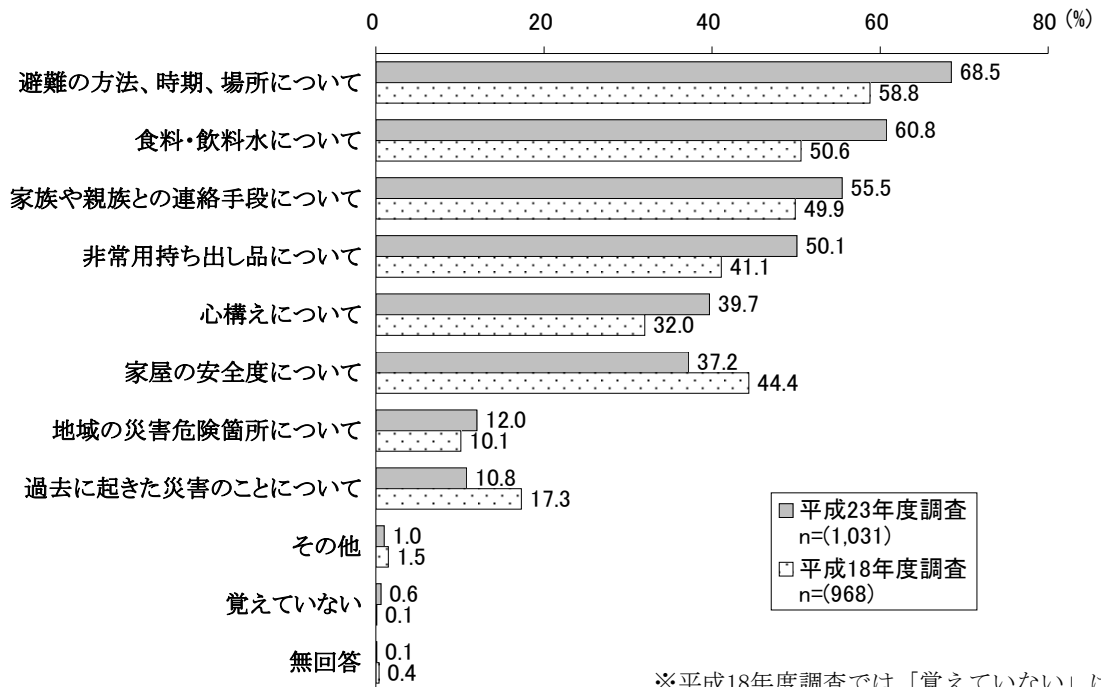
あなたが家族や身近な人と話し合いをした内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをした方に話し合いの内容をたずねたところ、「避難の方法、時期、場所について」が68.5%と最も高く、次いで「食料・飲料水について」が60.8%、「家族や親族との連絡手段について」が55.5%、「非常用持ち出し品について」が50.1%と続いている。

過去の調査と比較すると、「食料・飲料水について」、「避難の方法、時期、場所について」、「非常用持ち出し品について」で平成18年度調査から10ポイント前後の増加となっているが、「家屋の安全度について」、「過去に起きた災害のことについて」では約7ポイント減少となっている。

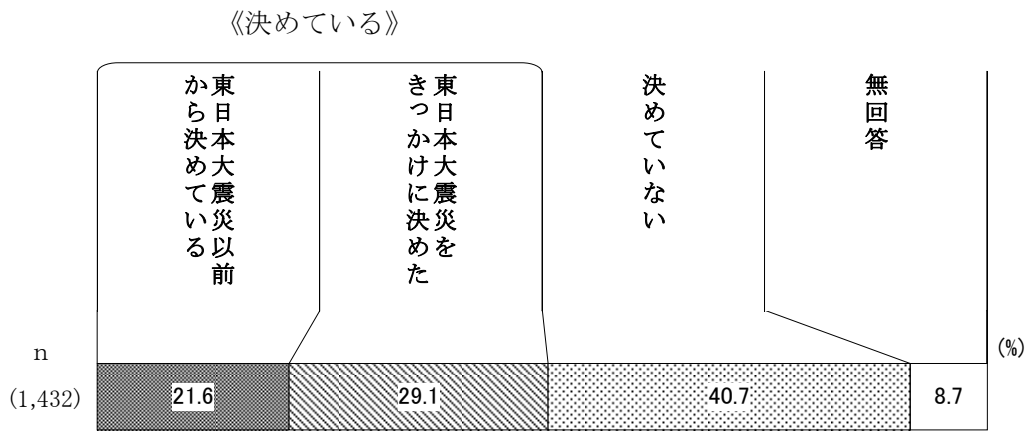
経年比較 話し合いの内容



※平成18年度調査では「覚えていない」は「分からない」であった

(3) 家族や身近な人との連絡方法の取り決め

問10 地震などの災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めていますか。(○は1つ)



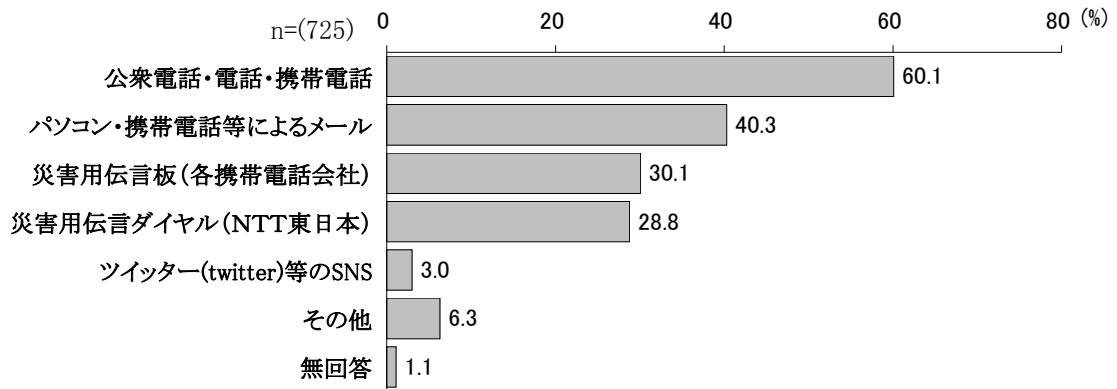
災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めているかたずねたところ、《決めている》が50.7%であり、一方、「決めていない」は40.7%である。

(4) 家族や身近な人との災害時の連絡方法

【問10で「東日本大震災以前から決めている」、「東日本大震災をきっかけに決めた」とお答えの方にお伺いします。】

問10-1 災害時の家族や身近な人との具体的な連絡方法はどのようなものですか。

(〇はいくつでも)

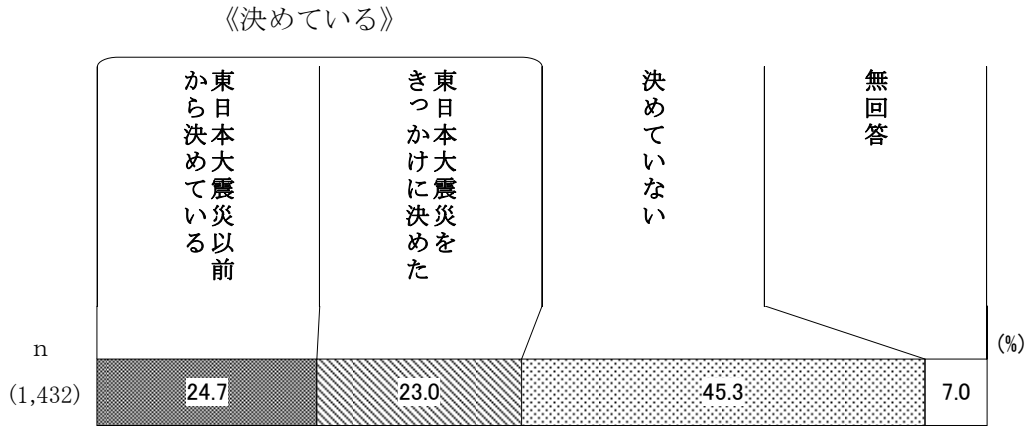


災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めていると回答された方に連絡方法をたずねたところ「公衆電話、電話、携帯電話」が60.1%と最も高く、次いで「パソコン・携帯電話等によるメール」が40.3%と続いている。

(5) 家族や身近な人との待ち合わせ場所の取り決め

問11 地震などの災害時に家族や身近な人との待ち合わせ場所を決めていますか。

(○は1つ)

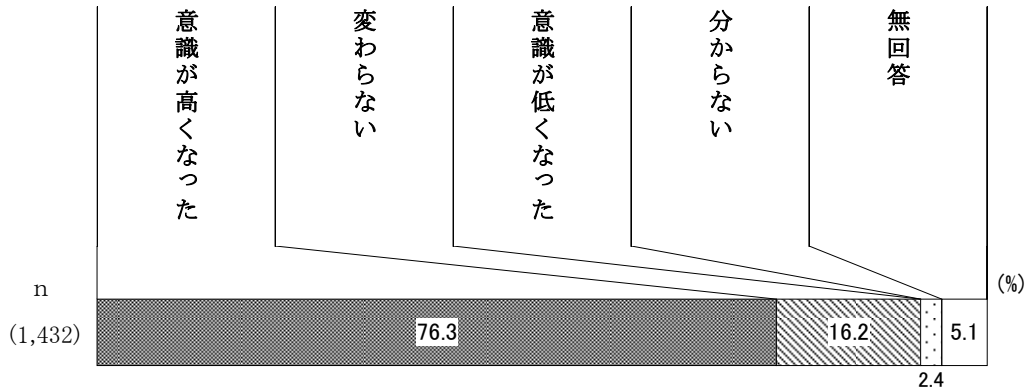


災害時に家族や身近な人との待ち合わせ場所を決めているかたずねたところ、《決めている》が47.7%であり、一方、「決めていない」は45.3%である。

(6) 震災前と比べた防災への意識

問12 東日本大震災以前に比べ、防災に対する意識はどのように変化しましたか。

(○は1つ)

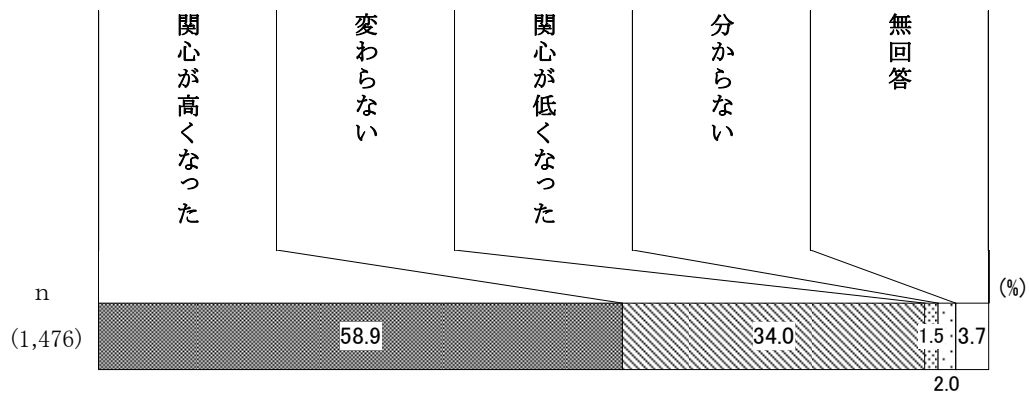


東日本大震災以前と比べ、防災に対する意識はどのように変化したかたずねたところ、「意識が高くなった」は76.3%と高く、次いで「変わらない」は16.2%となっている。

参考

平成18年度の調査は以前と比べた「大地震への関心」の変化をたずねたもので、今回の東日本大震災以前と比べた「防災に対する意識」の変化とは選択肢が異なる。また、直接的な比較とはならないため、参考として掲載する。

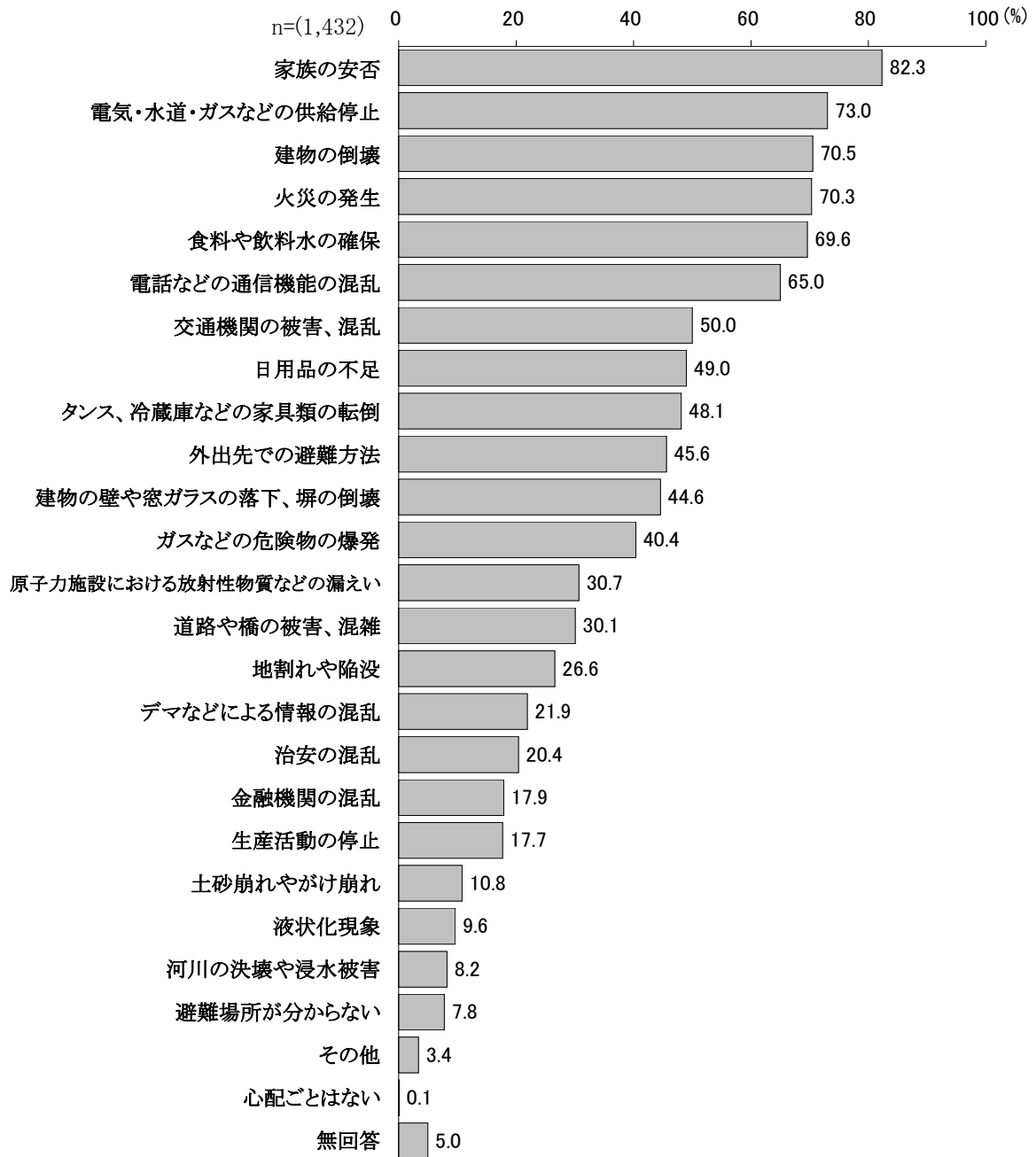
震災前と比べた大地震への関心（平成18年度）



(7) 大きな地震が起こった際の心配事

問13 大きな地震が起こった場合、あなたはどのようなことが心配ですか。

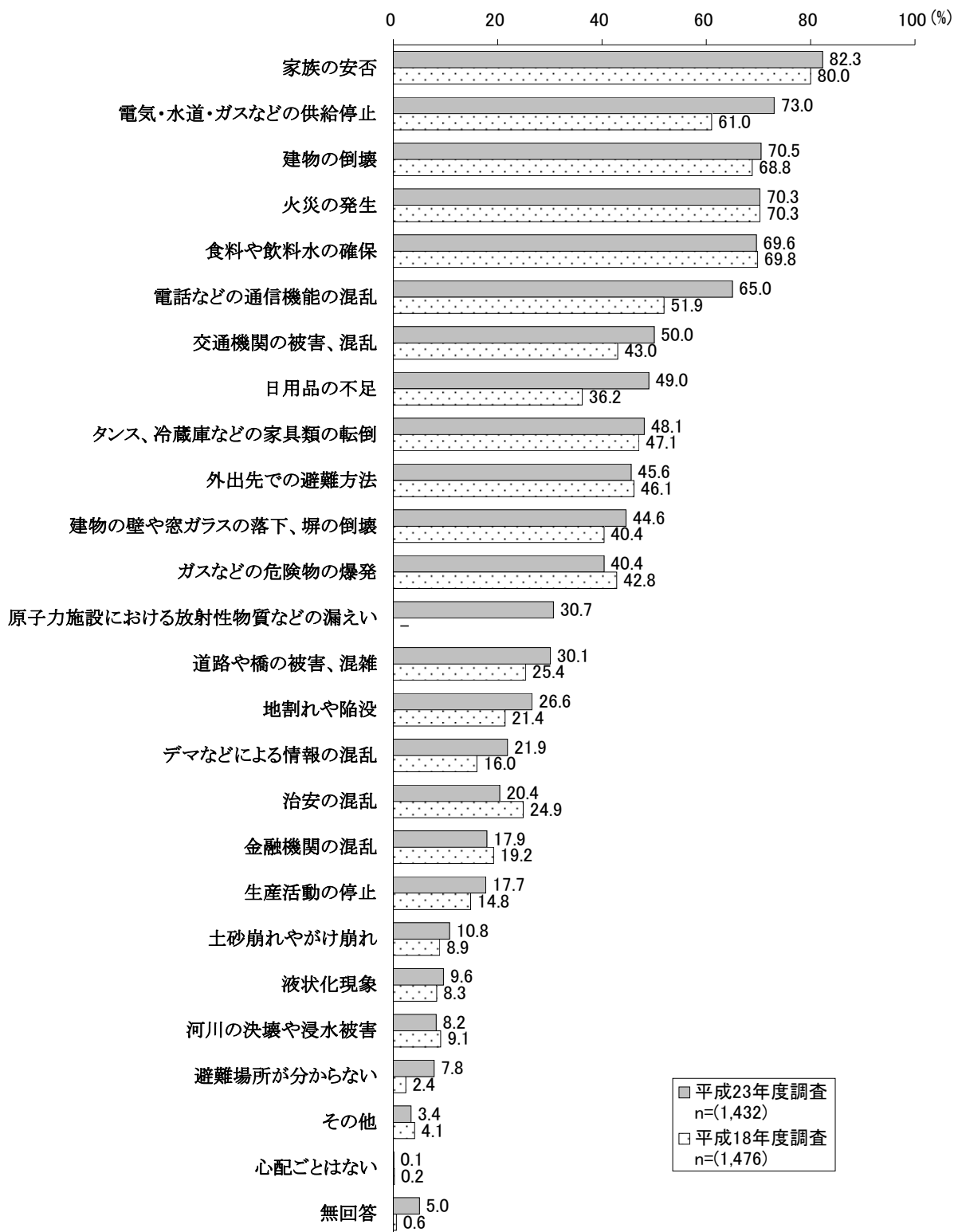
(○はいくつでも)



大きな地震が起こった場合どのようなことが心配かたずねたところ「家族の安否」が82.3%で最も高く、次いで「電気・水道・ガスなどの供給停止」が73.0%、「建物の倒壊」が70.5%、「火災の発生」が70.3%、「食料や飲料水の確保」が69.6%と続いている。

過去の調査と比較すると「家族の安否」、「建物の倒壊」、「火災の発生」、「食料や飲料水の確保」は平成18年度調査と同様に高くなっているが、「電話などの通信機能の混乱」、「日用品の不足」、「電気・水道・ガスなどの供給停止」は平成18年度調査から10ポイント以上の増加となっている。

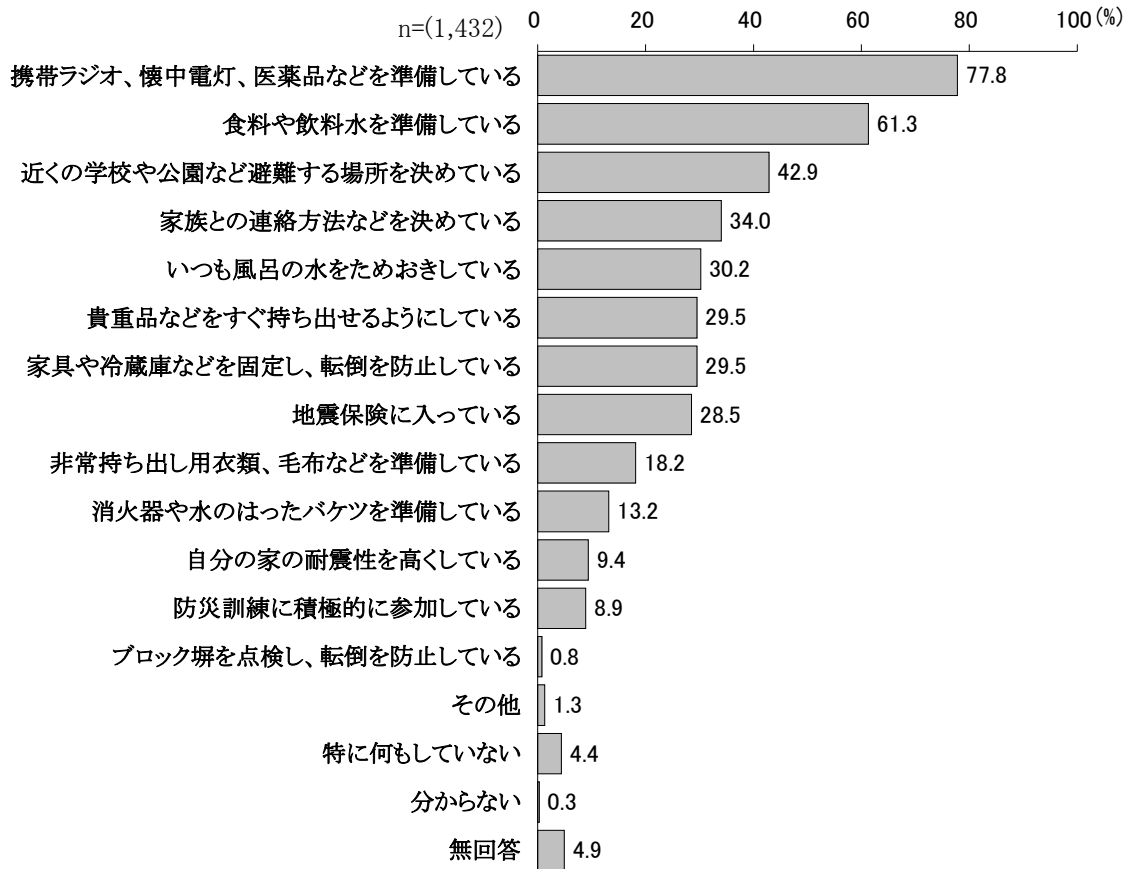
経年比較 大きな地震が起こった際の心配事



※平成18年度の調査では、「避難場所が分からない」は「近くに避難場所がないこと」であった
 ※「原子力施設における放射性物質などの漏えい」は今回調査から設定した選択肢である。

(8) 自宅での地震対策

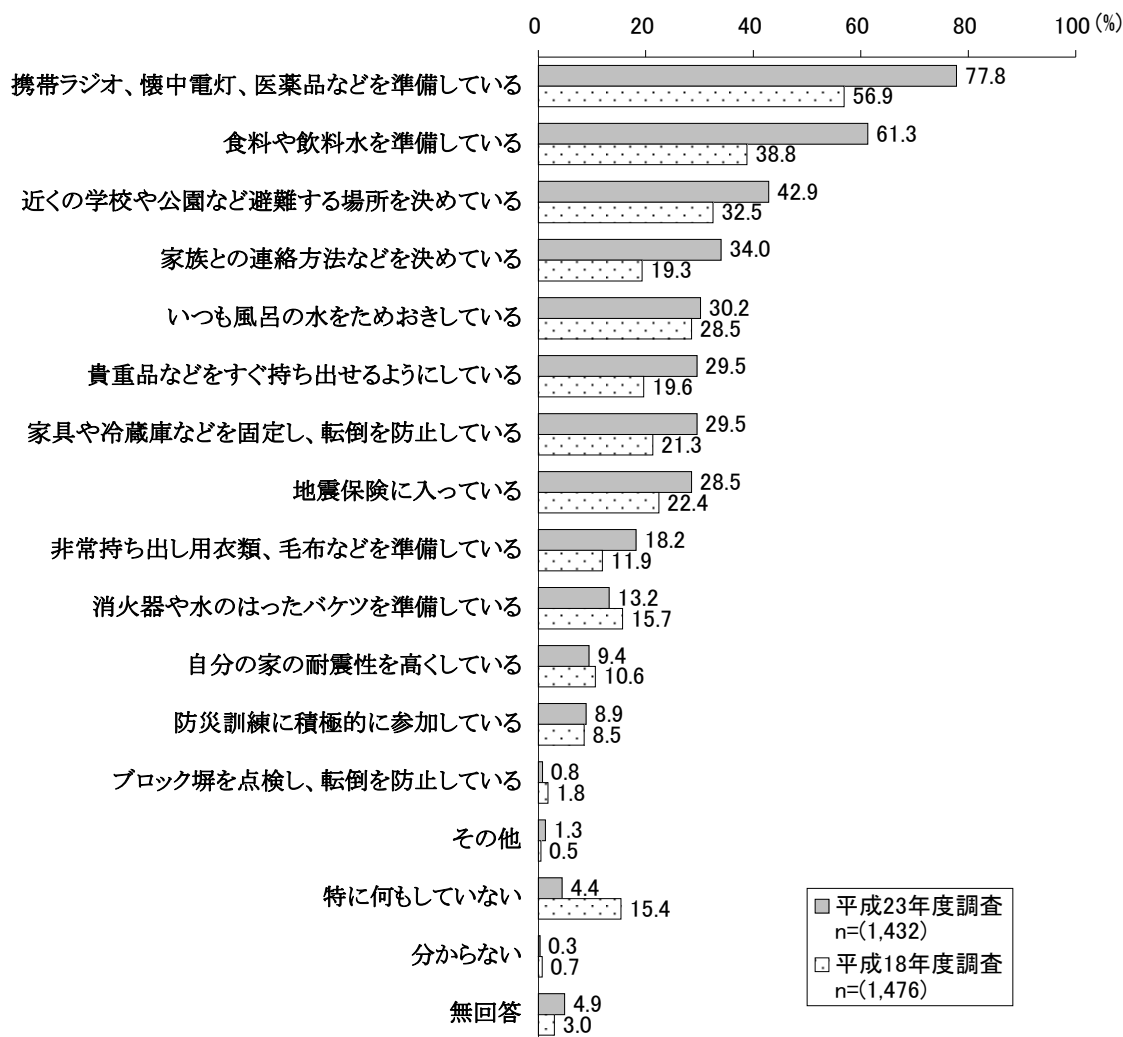
問14 あなたの家では、地震に備えてどのような対策を行っていますか。(〇はいくつでも)



地震に備えてどのような対策を行っているのかたずねたところ、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が77.8%と最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」が61.3%と続いている。

過去の調査と比較すると、東日本大震災の影響を受けてか多くの項目で増加がみられ、特に「食料や飲料水を準備している」と「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」の2項目が20ポイント以上の増加となっており、「家族との連絡方法などを決めている」、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」でも10ポイント以上の増加となっている。また、平成18年度調査では「特に何もしていない」が15.4%であったが、今回の調査では11.0ポイント減少し4.4%となっており、各家庭で地震に対する備えが進んだことがうかがえる。

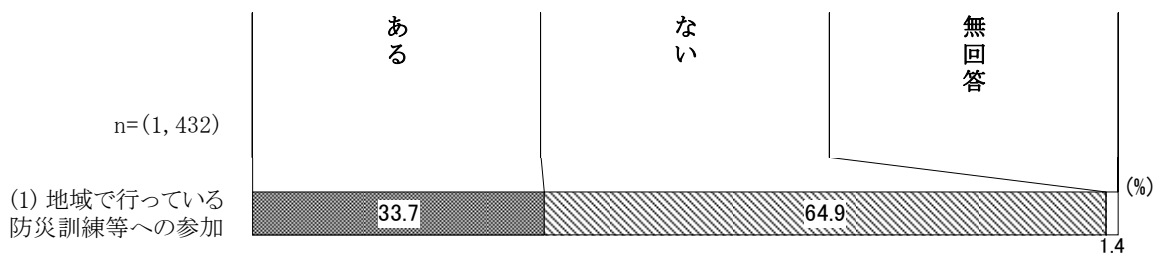
経年比較 自宅での地震対策



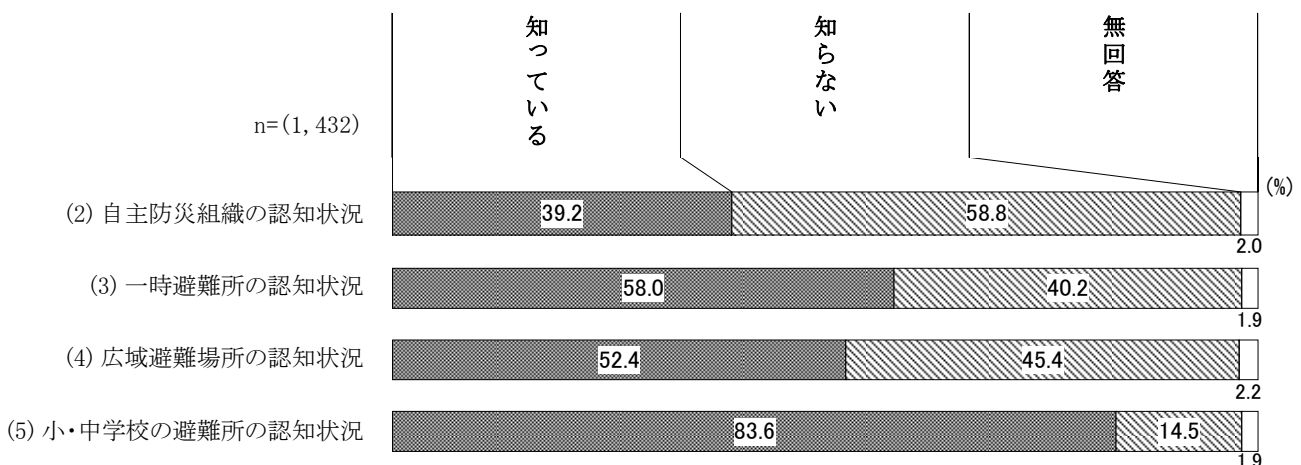
(9) 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

問15 日ごろ地域が行っている防災活動への参加状況や、災害時に避難する場所などについてお伺いします。(1)から(5)までの項目にそれぞれお答えください。

- (1) 地域で行っている防災訓練や研修会に参加したことがありますか。(○は1つ)
- (2) 地域に自主防災組織が結成されているのを知っていますか。(○は1つ)
- (3) 地震により火災や建物の倒壊等が発生した場合、一時的に様子を見るための場所として、地域の自治会が選定している一時避難場所を知っていますか。(○は1つ)
- (4) 地震により同時に多くの火災が発生し燃え広がった場合、火煙やふく射熱から身を守る場所として、市が指定している広域避難場所を知っていますか。(○は1つ)
- (5) 災害発生時、被災した人を受け入れるために小・中学校などが避難所となっているのを知っていますか。(○は1つ)



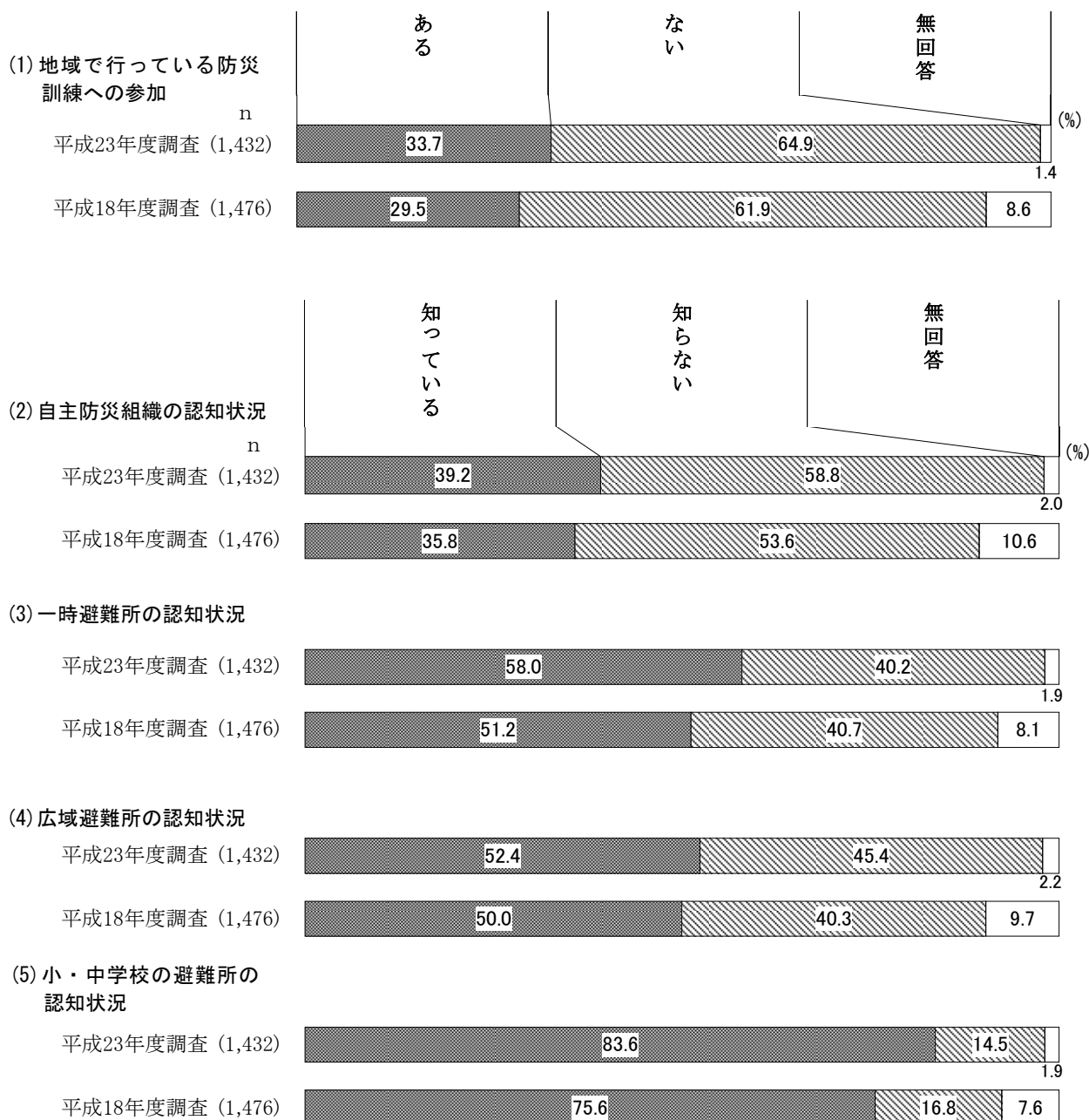
地域で行っている防災訓練や研修会に参加したことがあるかたずねたところ、「ない」が64.9%で高く、一方、「ある」は33.7%となっている。



自主防災組織と各避難先を知っているかたずねたところ、自主防災組織は「知らない」が58.8%と高くなっている。一時避難所は「知っている」が58.0%と高く、広域避難場所も「知っている」が52.4%と高く、小・中学校の避難所も「知っている」が83.6%と高くなっている。

過去の調査と比較して、防災訓練への参加状況で「ある」が4.2ポイント増加している。一時避難所の認知状況で「知っている（はい）」（58.0%）が6.8ポイント増加、小・中学校の避難所の認知状況で「知っている（はい）」（83.6%）が8.0ポイント増加している。一方、自主防災組織の認知状況や広域避難所の認知状況は「知っている（はい）」の増加もややみられるが、「知らない（いいえ）」も5ポイント程度の増加となって「無回答」が減少している。

経年比較 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等



※平成18年度の調査では、(1)～(5)の選択肢は「はい」、「いいえ」であった。